

宿泊料金はオーストラリア人が
トップ(1~3月、1人あたり円、観
光庁「訪日外国人の消費動向」)

1位	オーストラリア	9万7156
2位	フランス	8万3665
3位	英国	8万1749
4位	スペイン	7万9105
5位	米国	7万4793
...		
10位	中国	5万2868

買い物代は中国人が突出(同)

1位	中国	17万6975
2位	ベトナム	8万796
3位	香港	7万1905
4位	タイ	6万5970
5位	ロシア	6万4826
6位	台湾	5万5385

こうした志向を最も反
映しているのはリゾート
地。スキー場で世界的に
有名な北海道のニセコ地

訪日客の消費動向

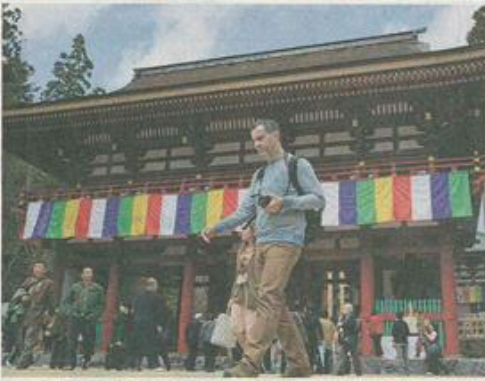
欧米豪は宿重視 中国人は買い物

お金の使い道お国柄

オーストラリア、欧米勢は宿重視、中国人は買い物で圧倒。昨年、1300万人を突破した訪日外国人のお金の使い方が、国や地域によって大きく異なっていることがわかった。ホテルや百貨店、ドラッグストアなどは多様なニーズに合わせたサービスで、顧客取り込みを目指している。

観光庁の1~3月の「訪日外国人の消費動向」によると、費用別の1人当たり消費額を比較可能な20カ国・地域で調べた。滞在中に使ったお金のうち、宿泊料金が最も多かったのは豪州の9万7千円。中国の2倍近くでフランス、英国が続いた。豪州は日本国内の交通費も3万7千円で首位。2位は英国だった。

「訪日外国人の消費動向」コンドミニアムに1週間、2014年度の欧州から多し(観光団体のニセコプロモーションポード)。長野県では「冬は白馬村のスキー場、夏は上高地の高原リゾートなどが人気」(県観光部)だ。高級ホテルも恩恵を受けている。帝国ホテル東も出てきた。JTBと京



地方へも足を運ぶ外国人が増えている(和歌山県・高野山)

阪電気鉄道は6月1日、京都市の京都タワー内に訪日外国人向けツアーを開く。主に狙うのは欧米系のリピーター。ひまわり畑で有名な兵庫県佐用町を訪れるような、通好みのツアーを用意する。

一方、買い物代では中国が17万6千円と他を圧倒した。家電やカメラなどの高額品から大衆薬、日用品へと裾野が広がっている。4月に免税品売場で大衆薬の販売を始めた家電量販店のソフマップ秋葉原本館(東京・千代田)ではわかもと製菓の胃腸薬「強力わかもと」が一時棚から消えた。ステンレス魔法瓶をこいっばいに入れレジに並ぶ姿もよく見られる。

小売店は、外国人がより買い物に専念できる環境づくりを進めている。駅ビル運営のルミネは5月11日から、訪日客が館内で買い物をした際の免税手続きを1カ所ですませられる「免税一括力ウインター」を5館に新設した。ドラッグストアのマツモトキヨシホールディングスは、約100の免税対応店舗にインターネットに接続できる公衆無線LAN「WiFi」を順次導入する。スマホなどで商品の情報を検索しやすくする狙いだ。